

地域支援だより

きらりNet



令和3年12月21日

第119号

秋田県立秋田きらり支援学校  
地域支援部

## 手指活動に関する工夫～はさみで切ること～

はさみを使って対象物を切ることが難しい児童生徒がいます。「はさみで切る」と一口に言っても、その動作は複合的であり、児童生徒の実態によって配慮が必要になります。

はさみで切るには、はさみの指穴に親指と人差し指または中指を通し、安定してはさみを保持する必要があります。その上で、はさみの開閉動作と、もう一方の手で紙等（切る対象物）を保持して位置調整する動作を、同時に繰り返し行います。また直線や曲線に沿って切るときには、視覚情報と協調して、はさみの刃の部分に線を合わせたり、手首の動きや指先の力を加減したりする必要があります。

はさみを上手に使うことが難しい児童生徒も、場合によってはユニバーサルデザインの商品や環境の工夫によって、補助することができるかもしれません。

握力が弱い、一方の手にまひがあるといった理由で、通常のはさみを扱うのが難しい場合には、使いやすいサイズや形状のはさみを使って補うという方法があります。次の写真は机に置きながら片手で押して切ったり、比較的わずかな握力で切ったりできるはさみです。



ユニバーサルデザインのはさみ「カスタ」長谷川刃物

「みんなのはさみ」ラージサイズ 日本利器工業



上記のユニバーサルデザインのはさみとも一部考え方が共通しますが、通常のはさみを持つのが、片方で紙の位置調整が難しい場合は、紙を押さえる台を工夫することも有効です。

## 自作教具（はさみ作業の紙押さえ台） 「ひとりでできるんだくん」



はさみが入る高さで、切る対象の紙の両端を固定（台座の磁石で紙を挟む）する自作教具。紙を持ったり、角度調整したりしなくても、はさみを使った切断作業ができます。利き手側のみで作業する場合や、紙・はさみの角度調整が難しい場合の補助具として活用できます。

同じ高さの木材2個の上面の端部位に磁石を接着し、紙を挟んで、押さえの磁石を上置く仕組みですので、用途によって使いやすい大きさの木材を用意して簡単に作ることができます。

先生方の児童生徒の実態分析及び補助具等の工夫の参考になれば幸いです。

（文責：自立活動部主任 佐藤篤）

※参考文献、資料 ・「ハンドスキル 手・手指スキルの発達と援助」協同医書出版社  
・川崎市中央療育センターホームページ内「リハ通信」バックナンバー

令和3年度 特別支援学校児童・生徒及び保育所園児等の作品展

学校紹介パネル、児童生徒の作品や作業学習製品等を展示します

令和4年2月3日（木）～2月10日（木）【秋田県社会福祉会館】

## 【中学部 作業学習実践紹介】

中学部作業学習では、牛乳パックをリサイクルして作ったエコ商品「油グッバイ」を製品として作っています。「油グッバイ」は揚げ物の後、鍋やフライパンに残った廃油を処理するためのパックです。活動場面では、生徒が自分でできるようにそれぞれに合わせた補助具を活用して取り組んでいます。



①パルプの計量作業が一人でできるように紙の器やストローを使用しています。非常に軽い道具を使用することで、少しの力でも操作が可能になります。



②目標物を提示したボードを、手を伸ばして届く正面に置いています。パルプが入った袋に手を伸ばして、決められた個数分を集めます。



③ゴムの力で箱の上部を狭くし、専用の台座に固定してラッピングします。利き手だけで上からビニール袋をかぶせて、作業ができます。

(文責：柳田 栄基)

## 教育専門監のコーナー

### 【おいしい体験で「手先の力」を育む】

#### 【運動(微細運動)面】

○まぜる、すくう<手の握力>○ふたを開ける、食材をちぎる<手の把持力/ピンチ力>○液体を器にそそぐときに両手で持つ、まぜるときに片手でまぜる、もう一方はボウルを固定など、両手で異なる活動をする<両手動作>

#### 【感覚面】

○力を加減しながら操作する<触覚・固有感覚の機能>  
○スプーンの先を細かく感じながらコントロールする<道具を介しても感覚を的確に捉えられるボディースキーマ>

#### 【認知面】

○ママ・パパの分もつくり、同じくらいの多さにわけるときの<量の概念>○どれくらいまぜれば、材料がまざるかを考える<まぜる時間と色の変化の因果関係>

おやつ作りで微細運動や細かな感覚を“おいしく楽しく”無理なく、育ててみませんか!!

参考：「リタリコ発達ナビ」(公式 WEB サイト)

### 《自分の作業を知る》

生徒の分かる、できる状況づくりを一番に考え進める中学部作業学習の実践。様々な工程に求められる指先の動きと、必要な力は、小さい頃からの道具を使う経験の中にちりばめられています。大切にしているのは各自の作業の質の高さ。すべての生徒が分かる作業を目指し、工程と導線を考えます。すべての生徒の作業の遂行を目指し、姿勢、補助具、作業配置を考えます。個に適した工程、個に適した状況を設定し、生徒の作業の質を育んでいきます。質の高い作業製品を仕上げる為には、作業内容が分かる、求められる質が分かる、そのための周囲への確認や依頼の仕方が分かるなど、自分の作業を振り返る視点をもつことが大切です。生徒は使う人を思い、責任をもって自分の工程を進めています。

(文責：二階堂 悟)



◇教育相談・見学の希望があれば、いつでも御連絡ください。

教頭 高橋 省子 地域支援部主任 大友 明希子

住所：〒010-1409 秋田市南ヶ丘1丁目1番1号

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575

「きらりNet」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>